2014. 9.18
第4回URAシンポジウム／第6回RA研究会

産学連携の分化とコーディネータ

小樽商科大学ビジネス創造センター
澤田芳郎

職　歴

- **シンクタンク研究員**
  - センチュリリサーチセンタ株式会社（1982～85）
  - 財団法人未来工学研究所（1985～88）
- **大学教員【科学社会学、情報システム論】**
  - 京都大学教育学部（1988～90、任期付き）
  - 愛知教育大学教育学部（1990～2001）
- **大学教員【共同研究センター専任教員】**
  - 京都大学国際融合創造センター／産官学連携センター（2001～2010）
  - 小樽商科大学ビジネス創造センター（2010～）

「教員ポストで雇用された産学連携コーディネータ」という職業。研究者として産学連携現場を参与観察している面もある。

コーディネータとしての主な活動

● 京都大学

- 中小企業を中心とする約300件の持ち込み案件に対応。10%強で共同研究、有料コンサルを成約
- 事業系案件

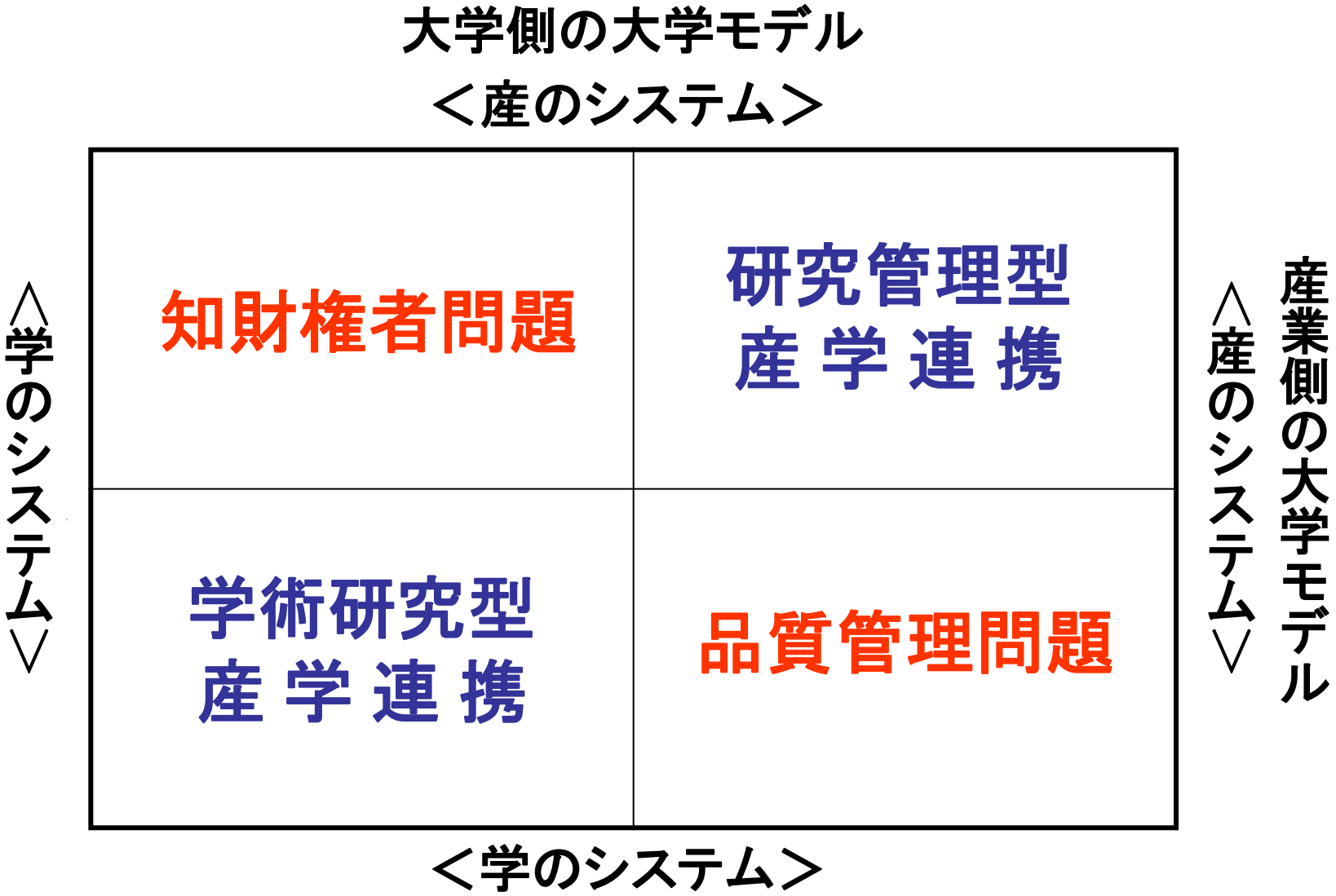
  1) ビール、発泡酒の産学学共同開発

  2) 記録映画のDVDブック化

● 小樽商科大学

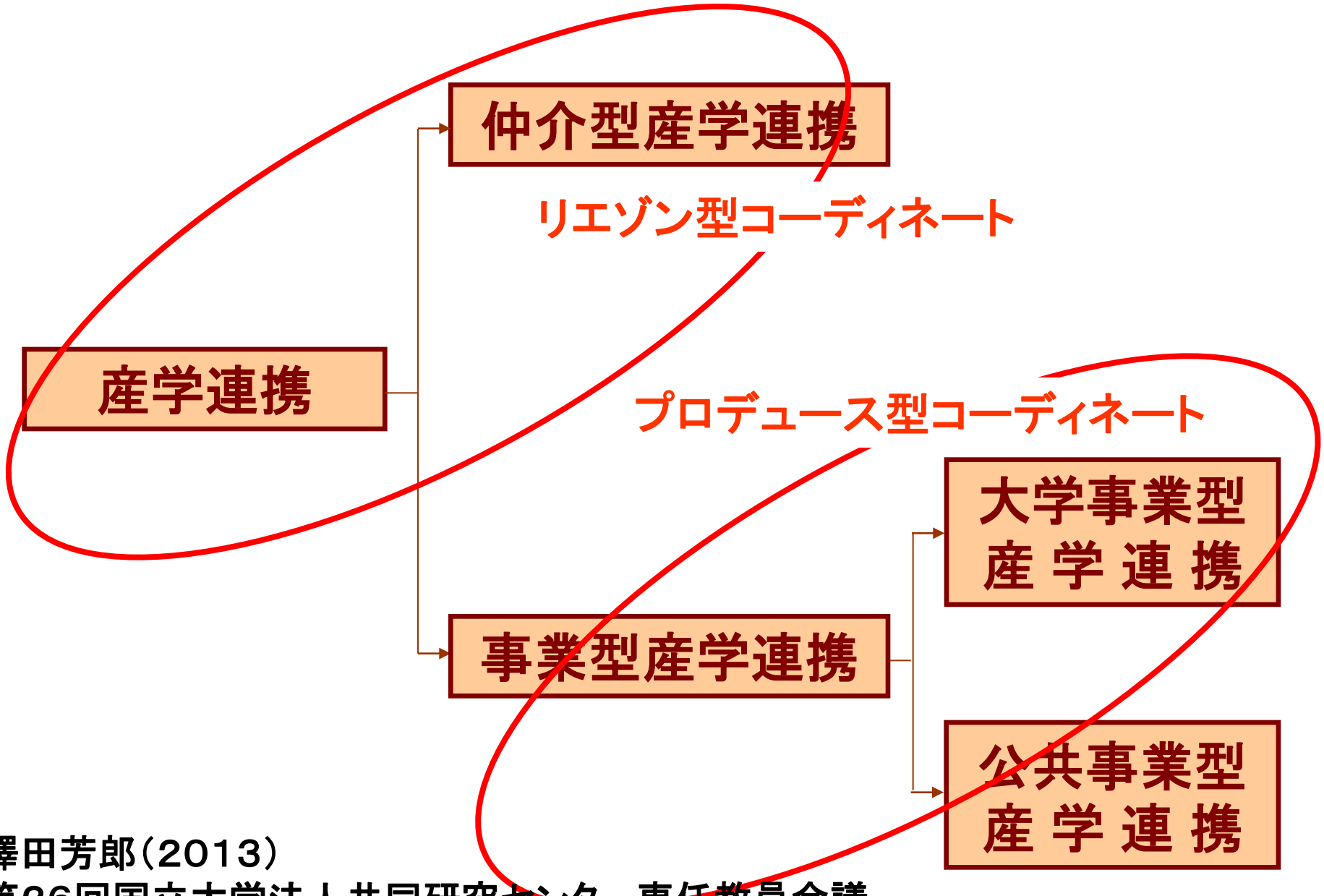
- 『北海道食品の輸出に向けた味覚の国際比較調査及び国際ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ調査』ﾌﾟﾚｱﾜｰﾄﾞ、ﾌﾟﾛｾｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
- 特定運営費交付金「開放型知的ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾑによる連携事業」採択
- 教員紹介ビデオ（1本3分強）を34本制作、順次WEB公開中

大学モデルの衝突と産学連携コンフリクト



澤田芳郎（2004）「大学モデルと産学連携コンフリクト」
『産学連携学』1（1）

産学連携の分化とコーディネータ



澤田芳郎（2013）
第26回国立大学法人共同研究センター専任教員会議

「相互依存を伴う対立関係」の管理を

- 「科学の産業化」（ラベッツ、1971）、「科学の制度化」（廣重、1973）の中で、共同研究センター専任教員もURAも生まれてきた。「研究支援職」が制度化、深化してきたのではないか？
  - 学問の自由は研究者の特権ではないが、リソースにあかしてコントロールしていいものでもない。**現場は「相互依存を伴う対立関係」にあり、精緻な管理が必要。**一つの逃げ道は「研究者人格の多重化」。
  - 研究支援職は研究そのものではなく、研究の社会的意味やその発揮の手順の専門家。ゆえに「広報」や「事業化」に関しては状況をリードできる。よほど条件が整えば、「研究プロデュース」も可能か。

トップダウンとボトムアップの融合による
新しい大学アドミニストレーションの
中核プロセスを構築するのはURA。
機能、活動上のコンフリクト、解決策の分析を。